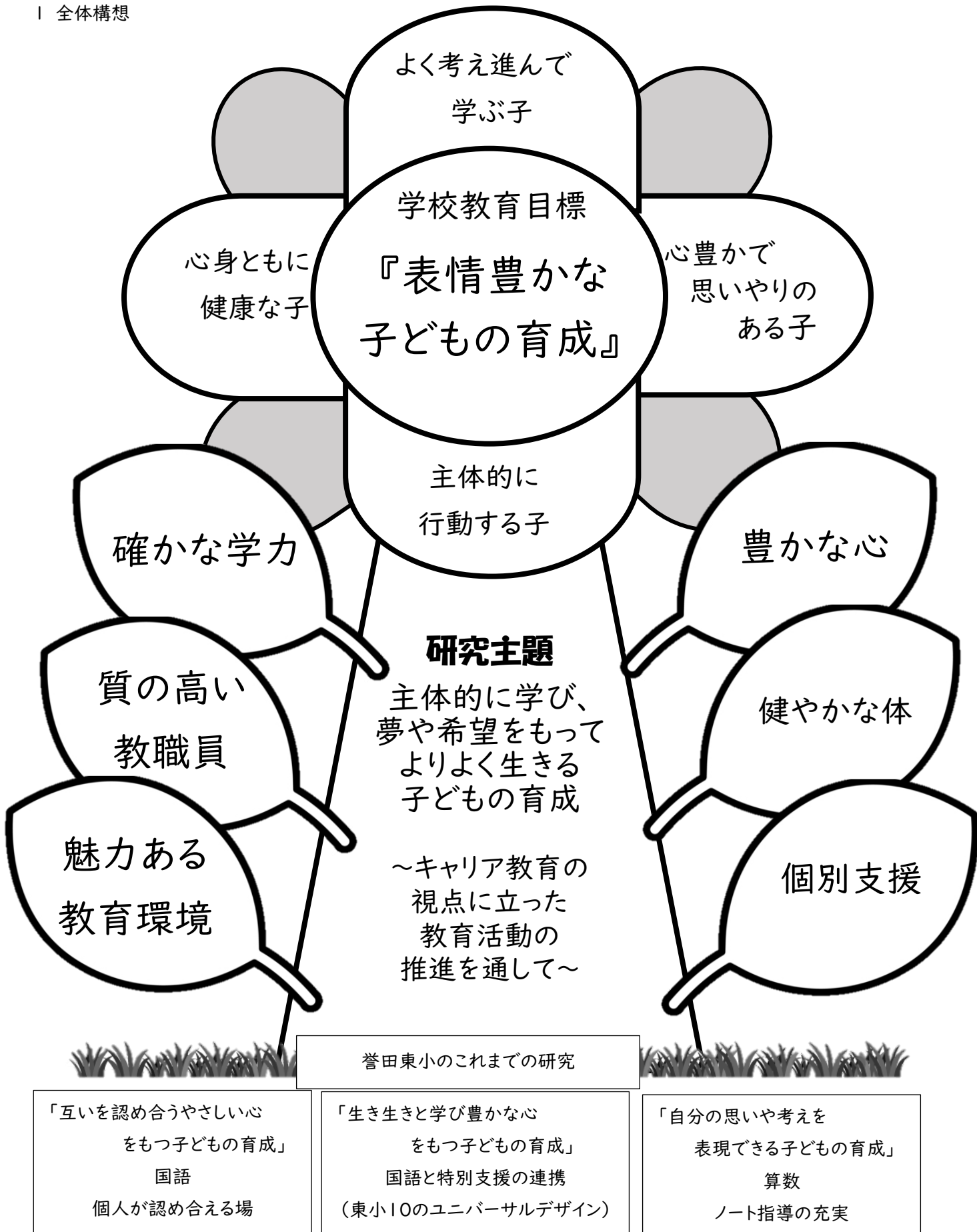


Ⅰ 全体構想



2 研究主題

主体的に学び、夢や希望をもってよりよく生きる子どもの育成

～キャリア教育の視点に立った教育活動の推進を通して～

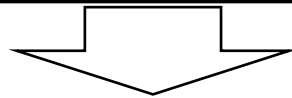
3 主題設定の理由

(1) 子どもの実態と研究の経過から

本校の子どもの実態を昨年度末、本校の職員で振り返り、教師の願いを共有したところ以下の通りであった。

○子どもの実態(全校児童 863 名)

- ・明るく素直で、与えられた課題にまじめに取り組むことができる。
- ・教師の発問に対して反応が良く、様々な学習活動に関心をもって取り組める。
- ・ノートや ICT 上に自分の考えを表現できるが、人前で意見を話すことが苦手とする子どもがいる。
- ・ペア活動やグループ活動において、考え方を伝えることはできるが、聞き返したり、質問したりすることができない子どもがいる。
- ・自分の良さや集団での自分の役割を自覚できず、集団の中で役立つ喜びを感じられない子どもがいる。



○教師の願い

- ・友達の良さに気づき、友達の考えを共感的に受け止められる子どもになってほしい。
- ・授業で学んだことを、いつでも、どんな時でも、どんな場面でも生かせる子どもになってほしい。
- ・学習や児童会活動、学校行事などにおいて主体的に行動する子どもになってほしい。
- ・自分の良さに気づき、それを伸ばしたり、自信をもって発揮したりできる子どもになってほしい。
- ・将来の夢や目標に向かって、進んで行動できる子どもになってほしい。

変化の激しい今日の社会に対応するために「生きる力」をはぐくむことが求められている。今年度は本校の実態から、キャリア教育を新たに研究する。それにあたって、キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力(①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力)のうちで、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」を重点項目とする。子どもの実態から考えられた教師の願いに合わせて、子どもたちのキャリア能力を発展的に育てていくことを目指すためである。

本校は今まで、平成22年から「国語力の育成」による言語活動の充実に取り組み、平成24年からは、千葉唯一の言語障害通級指導教室、難聴通級指導教室、LD 等通級指導教室と3種類の通級指導教室をもつ本校の特性を生かし、通常学級と通級指導教室が連携する中で、やさしく思いやりをもてる子どもの育成を図ってきた。その後、研究教科を算数に改め、「わかる」「できる」を実践できる授業づくりを行い、自分の思いや考えを表現できる子どもの育成を目指してきた。過去の研究の実績も取り入れながら、全教育活動におけるキャリア教育の推進を試みるために、研究主題を「主体的に学び、夢や希望をもってよりよく生きる子どもの育成 ～キャリア教育の視点に立った教育活動の推進を通して～」とした。

(2) 本校の教育目標から

「**表情豊かな**」とは、自己肯定感が高く、自己実現を果たした子どもの表情である。自己肯定感とは、自分の価値や存在意義を肯定できる感情などを意味する。自己実現とは、周りのいろいろな人やものとの関わり合いの中で、自分の良さを存分に発揮し、充実している姿である。教師や友達との関わり合いの中で、そのような姿が見られるような手立てが必要である。

「**よく考え進んで学ぶ子**」とは、学習する意義を理解し、夢や希望に向かって進んで取り組むことができる姿である。そのために、基礎・基本に重点を置き、できることや分かることの喜びを味わえるようにしていく必要がある。「**心豊かで思いやりのある子**」とは、様々な人やものごとの関わりを通して、自己理解を深め、相手に対して共感的に接することである。周囲の人と様々活動をする中で、一人一人の達成感や成熟感を伝え合うことが必要である。「**心身ともに健康な子**」とは、活気に満ち溢れ、楽しく学習に取り組むことができる姿である。体力を養い、心身ともに調和のとれた健康な体づくりを行うことが必要である。「**主体的に行動する子**」とは、自分の意志や判断に基づき、責任をもって行動する姿である。行事や特別活動、キャリア教育の充実を図ることが必要である。本研究副主題であるキャリア教育の視点に立った教育活動の時間の推進を通して、研究主題に迫ることは、本校の目指す子ども像を育成することにつながると考える。

4 研究の視点について

本校はこれまで算数科の学習を通して、「自分の考えや思いを表現すること」に焦点をあてて3年計画で研究を行ってきた。3年間のまとめである昨年度は、キャリアの視点を取り入れた「発達段階に応じた『伝えること』の目標」を立て比較検討の充実を図ってきた。

令和5年度千葉県学校教育の課題「21世紀を拓く」の重点には全教職員がキャリア教育の目標を立案、共有し、子どもに対する指導体制、実践を支える運営体制の充実を図らなければならない。また、キャリア教育に関する共通理解や情報収集を図り、日々の学びと子どもの将来が結び付けられる学習プログラムの開発に努めるとともに、児童の学習意欲の向上を目指すと記されている。そのことから、今年度の研究は、教科・領域はもちろんのこと学校行事や日常生活の様々な場面において、人や物との関わりを通して、日々の生活や考えを振り返り、自己の課題と捉えながら、自分の生き方へと反映させていくことが必要であると考え。子ども自身が「自分の将来に向かって、希望や夢をもち、主体的に行動する」ことを意識して、自己を見つめるように導いていくことが大切である。そこで、その手立てとして、次の視点を設定する。

(1) 視点1 キャリア能力を高めるための工夫に取り組み実践する。

① 単元構成

育てたいキャリア能力に合わせて「どの教科の、どこの単元」で実践するか考える。

② 声かけ

授業、特別活動などの学校の教育活動全般において、目指すキャリア能力を提示する。

③ 目指すキャリア能力の提示

学校、学年の実態からキャリアの重点目標を立て、教室内に掲示し活用する。

④ 発問

キャリア能力を高めることをねらいとした教師の発問を工夫する。

⑤ 板書

板書、教材の工夫をする。

⑥ 環境

活動形態、場を工夫する。



(2) 視点2 キャリア能力がどのように高まったのか評価する。

① 本時の学習過程での評価

- ・キャリア能力を高めることを目指して活動しようとしていることが感じられる言動、発表、記述など。

② 振り返りでの評価

- ・学習経過や活動、児童の気付きや感想、自己評価などを記録し、評価する。

※各教科等の学習評価はあくまで各教科等の評価基準で行う。ただし、授業内容がキャリア教育そのものを扱う場合は、例外に考えることができる。（「キャリア教育ガイドブック小中 9年間をつなぐ2018」より）

5 研究の方法

「★」は、今年度力を入れて実施する。

【ステップ1】★

- ① 育てたいキャリア能力の共通理解を図るために、キャリア教育について教師の知識を深められる研修を行う。
- ② キャリア教育を通じて育てる基礎的・汎用的能力から育成すべき能力や態度を考える。
- ③ 学年会を実施し、課題について共通理解しながら目標を立てる。
- ④ どのように授業実践を行うか、全体で検討し、検証を行う。

【ステップ2】

- ① 学年会を通して立てた目標（育てたいキャリア能力）をもとに検証授業を行う。
- ② キャリア教育アンケートを年2回（実施時期は未定）行い、変容から成果と課題を明確にしていく。
- ③ キャリア教育を学校教育全体の中で行っていくために、まずは「かかわる力」「みつめる力」「いかす力」「つなぐ力」を各教室内に掲示し、意識的に取り組めるようにする。★
- ④ 学習経過や活動、児童の気付きや感想、自己評価などを各学年で実施し、振り返りを行う。★
- ⑤ キャリアパスポートを年に3回活用し、教師と子ども、保護者で連携してキャリア教育に取り組んで行けるようにする。★
- ⑥ 教科・領域、学校行事などにおいて、キャリア教育の視点に立った実践をする。



6 その他

(1) キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的について

育てたいキャリア能力は「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つある。

【人間関係形成・社会形成能力】(かかわる力)

多様な他社の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他社と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる。

【自己理解・自己解決能力】(みつめる力)

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

【課題対応能力】(いかす力)

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

【キャリアプランニング能力】(つなぐ力)

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

これらの育てたいキャリア能力を学級の実態から児童がわかる言葉に変えて、学年の重点目標を立てる。また現存している「ひまわりっこの未来につながる“かがやく生き方”力」は今後も教室に掲示するなどして活用していく。

(2) 研究組織について

今年度の研究部会は、全体会、学年部会とする。養護、栄養士、通級指導教室とも共通理解していくために、各学年に属して研究を行う。また、部会長を今年度は設けず、各学年1名のキャリアプランナーを立てる(学級数が増えているため、場合によっては2人の学年もある)。研究主任、副主任と同じように研究推進委員会に参加し、各学年の話し合いの中心となり、疑問点を集約し、共通理解をする。